



## “地環研”の仕事

今回、静岡県立大学の三宅さんよりバトンを受け取りました埼玉県環境科学国際センターの堀井です。前号のリレーエッセイに記載のあった Wadsworth Center (ニューヨーク州) には、私もポスドクとして2年間滞在した経験があり、当時を懐かしみながら楽しく読ませていただきました。さて、今回リレーエッセイのお話をいただき、これまでの執筆者リストを眺めていますと、地方研究所の方がほとんどいないことに気づきました。職業柄、日常業務として分析に携わっている方が多いと感じていましたので、私にとっては少々驚きでした。そこで今号では地方環境研究所“地環研”の仕事について、私の所属(埼玉県環境科学国際センター・化学物質担当)を例にご紹介させていただきます。なお、あくまで私感であること前置きさせていただきます。

まず、地環研の主な仕事として行政検査や委託業務の精度管理があるかと思います。これは分析化学と最も深く関連する部分でしょう。私の所属する化学物質グループでは、ダイオキシン類、内分泌攪乱物質をはじめとした、極微量でも人の健康や生態系に悪影響を及ぼす、又はその可能性が疑われる化学物質について、環境モニタリング、分析技術の開発、環境リスク評価のための情報管理に取り組んでおり、行政検査としては、主にダイオキシン類の濃度分析を担当しています。ダイオキシンといえば、1999年当時に多く報道された所沢のハウレンソウ問題を思い出す方もいらっしゃるのではないのでしょうか。いわばダイオキシン問題の走りともいえる埼玉県では、現在も自前で300検体以上の分析をこなしています。試料には、大気、水、土壌の環境媒体だけでなく、廃棄物焼却施設の排ガスなど発生源試料が含まれ、非常に多岐にわたります。ダイオキシン分析は、皆さんが想像されるとおり、抽出、クリーンアップ、そして機器分析と作業工程が長く時間のかかる作業で、仕事全体のかなりのウェイトを占めていることは事実です。これらは、いわゆるルーチンワークですが、自分たちの出した結果如何によっては、対象施設が行政処分を受けることになるため、非常にシビアな分析精度管理が求められます。

次に、地域住民の方々を対象とした環境学習や情報発信も重要な仕事の一つです。例えば年に3回開催される研究所公開では、研究員が持ち回りで研究室を紹介し、さらに子供たちや保護者の方々を対象に、実験などの簡単な出し物をするのですが、毎回ネタ探しに悩まされます。私の場合、小学2年生になる娘やその友達、そして知り合いのお母さん方が来られることもあるので、もちろん気を抜くわけにはいきません(後の評判も気になりますので(笑))。

その他、環境科学国際センターの特色として、国際貢献があります。例えば、地球環境問題に係る環境モニタ



写真 インド・チェンナイ市を流れるコーム川  
(河川周辺にはゴミや排泄物が散乱している)

リング調査などの国際的技術協力などです。私の場合は、現在進行中の揮発性有機シリコンの環境モニタリングに関する研究プロジェクトの一環で、今年1月にインドを訪れる機会がありました。インドでは主に都市域における河川や沿岸域の水環境調査を中心に行ったのですが、話以上に水質汚染が酷く、驚きを隠せませんでした(写真)。現地協力者の話では、インドのトイレ普及率は世界で最も低く3割程度で、何と携帯電話の普及率(65%)より低いそうです。インドの人口は約12億5000万人ですから、実に約8億7千万人(UE全体の人口:5億900万人よりも多い)の方が毎日河川で用を足しているわけです。環境問題を考える場合、地域に密着した取り組みはもちろん重要でしょう。ただそれと同じく、外の現状を理解し、客観的に問題とらえることも大事かと思います。これからも、環境中の化学物質濃度を高精度で分析することを基軸に研究を進め、地域の安心・安全な生活環境の構築に貢献、さらには国際的な問題にも取り組んでいければと考えています。

とりとめもない話になってしまいましたが、地環研の仕事の一部を垣間見ていただけましたでしょうか。地環研だからといって自由に研究ができない訳ではありません。もちろんお家の事情はありますが、それは大学や国研であっても同じことだと思います。現在環境分野で研究者を目指している方は、是非地環研も選択肢の一つとして考えられてみてはどうでしょうか。意外と穴場かもしれないかもしれませんよ。

さて、次号のリレーエッセイは、国立環境研究所の松神さんをお願いしました。年度末のお忙しい時期にもかかわらず、ご快諾いただき誠にありがとうございます。

〔埼玉県環境科学国際センター 堀井勇一〕